

実践報告

地域診断の教育の工夫について

作並亜紀子* 播本雅津子 室矢剛志

名寄市立大学保健福祉学部看護学科

1. はじめに

保健師活動の基盤の1つに地域診断がある。地域診断は、個人・家族、地域全体の顕在的・潜在的な健康問題を把握し、その原因・背景を明らかにしながら解決方法を見いだしていくことを目的としている¹⁾。健康に関する統計や調査結果だけでなく、家庭訪問など地域での保健師活動を通してみずからの目で地域を確かめること、住民との話し合いから生活の現状や要求を知ること、地域の歴史や生活習慣、環境を把握するなど地域の実態を把握しておく必要がある²⁾。

本学の保健師教育で実施している地域診断の学習は、学生が地域の様子や住民の生活を想起しながら地域診断の技術を理解する一助となっている。そこで、本稿では、地域診断の教育の工夫について本学の保健師教育での取り組みを報告する。

2. 本学の保健師教育について

名寄市立大学における看護学教育は、平成6年に市立名寄短期大学に看護学科を設置したのに始まる³⁾。市立名寄短期大学看護学科は平成17年度入学の12期生を最後に名寄市立大学保健福祉学部看護学科へと改組した³⁾。名寄市立大学保健福祉学部看護学科では看護師養成施設と保健師養成施設の認可も受け、看護師と保健師を養成³⁾している。名寄市立大学保健福祉学部看護学科6期生までは全員が看護師国家試験受験資格および保健師国家試験受験資格が卒業要件であったが、カリキュラム改正により7期生から、看護師国家試験受験資格のみを卒業要件とすることが可能となった。そのため看護師国家試験受験資格のみを卒業要件とし、保健師国家試験受験資格取得は保健師課程履修者選考試験を経て履修が認められた者のみとし、その定員を15名と定めた³⁾。

現在、本学の保健師教育は、2年次で看護学科必修科目として学年全体を対象に行い、3年次で看護学科選択科目として保健師科目選択者を対象に行っている。保健師科目選択者のうち3年次後半の保健師課程履修者選考試験を経て、4年次では保健師課程履修者を対象に行っている。

3. 本学の地域診断の教育について

本学の保健師教育で実施している地域診断の教育は、学年ごとに3つの段階に分けて学習を積み重ねている(表1)。

第一段階は2年次で、講義と個人学習、グループ学習を行う。2年次では、学生が1年を通じた地域の様子や住民の生活が想起できるように学習する対象地域を個人学習では「四季を通じて生活した市町村」、グループ学習では「A市」としている。学習する対象地域をグループ学習でA市としている理由は、本学の学生の90%余がA市の下宿またはアパートで生活しているため学生自身が住民の1人としての視点があることがあげられる。また、地域診断は2年次からの学習のため1年次の間に多雪寒冷であるA市の冬の暮らしも経験しており、四季を通じて生活が想起することが可能であることがあげられる。第一段階では個人学習やグループ学習の際、主に既存資料から情報収集をする。教員は地域診断に必要な情報についてのポイント

*責任著者 E-mail:akikos@nayoro.ac.jp

も指導をしている(表2、3)。そして、教員は学生の報告内容を丁寧に指導し、地域の情報を過不足なく伝えることにより、報告の際にクラス全員が地域診断の学びを共有できるようにしている。そのため、教員はA市やその他地域について地域診断に関わる情報を普段から把握するようにしている。

第二段階は3年次で、講義、個人学習、グループ学習を行っている。2年次よりも住民の生活に焦点が当たるように、学習する対象範囲を「子どもの暮らし」、「元気高齢者の暮らし」、「サポートが必要な方々の暮らし」、「積雪寒冷地の暮らし」として4つの視点からグループ学習及び個人学習を進める。2年次の学びをさらに深められるように、学習する対象地域は第一段階と同様としている。第二段階では、既存資料からの情報収集と同時に地区踏査に取り組む。地区踏査とは、地域に出向き、直接地域を観察したり話を聞いたりすることを通して、地域の生活状況の実感的情報を得ること⁴⁾である。学生は、地区踏査で学生自身の知人や教員から紹介を受けた住民に積極的に話を聞き地域住民の生活の様子などを把握している。学生が住民との交流をスムーズに行うことができるように教員は保健師教育への理解と協力をいただける地域住民へ事前の依頼や日時調整をしている。

第三段階は3年次の後半から実習する市町村についての情報を収集する。そして、4年次で、実習グループごとに実習する管内と市町村の学習を行っている。事前学習として、実習する管内や市町村の情報を主に既存資料等から集めて、実習に行く地域の地域診断を進める。実習中は、指導保健師からの指導を受けたり、

表1 段階ごとの授業方法と対象地域

段階	学年	授業方法	対象地域
第一段階	2年 (学年全員)	個人学習①	四季を通じて生活した市町村
		グループ学習①	A市
第二段階	3年 (保健師科目選択者)	個人学習②	四季を通じて生活した市町村
		グループ学習②	A市
		グループ学習③	実習する市町村
第三段階	4年 (保健師課程履修者)	グループ学習④	実習する管内
		グループ学習⑤	実習する市町村

※1 個人学習①、グループ学習①及び個人学習②、グループ学習②の学習後は報告し、学びを共有する。

※2 第一段階、第二段階の始めには、地域診断の目的など段階ごとの学習に応じた講義を実施している。

表2 個人学習の地域診断のポイント

地域を紹介してみよう ○○の紹介 ・地理・地勢・気候などの自然環境 ・歴史 ・政治と行政 ・安全と交通 ・どんな人たちが暮らしているか ・どんな産業で成り立っているか ・教育 ・保健医療・社会福祉 ・コミュニケーション (情報の伝達方法等)
--

(出典：平成30年度 授業「公衆衛生看護学概論」資料)

表3 グループ学習の地域診断のポイントの一部

<p>[歴史・物理的環境]</p> <p>歴史：地方自治体としてのA市がどのように移り変わって現在に至るか調べる。支えてきた産業がどのように発展し、変化してきたか調べる。郷土の歴史について把握する。</p> <p>物理的環境：地理・地勢について調べる。</p> <p>[住民の様子・価値観と信条]</p> <p>市章・キャッチフレーズ・市の花・市の鳥・文化財など、市がシンボルとしているものや市民が大切にしてきたものに着目する。</p> <p>[経済]</p> <p>A市の産業構造（第1次産業・第2次産業・第3次産業）を明らかにした上で、それぞれの特徴を述べる。</p> <p>[安全と交通]</p> <p>安全：消防・警察の他、防災に関する市の取り組みにも着目する。また、住民レベルの安全・安心活動にも着目する。</p> <p>交通：公共交通機関・道路など、交通に関する情報をまとめる。</p> <p>[教育]</p> <p>A市における教育について、歴史的移り変わりを含めて調べる。</p> <p>教育とは、幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・社会教育に分かれている。社会教育施設には、図書館・博物館・天文台がある。また、社会教育活動として、高齢者大学、市民講座などがある。</p>
--

(出典：平成30年度 授業「保健指導論」資料より抜粋・一部改変)

事前の情報収集をもとに、地区踏査では学生自ら何度も地域に出向き、住民との交流も積極的に行っている。第二段階では、教員の紹介による住民との交流が多く、指導も行うことにより、第三段階の実習では住民との交流の方法を理解できるため、初めて会う住民とも目的に沿って円滑にコミュニケーションをとっている。

4. 教育の工夫による成果

本学の保健師教育では、地域診断の演習を早い段階から取り入れ、第一段階と第二段階で学習する対象地域を学生が生活した経験があるなど住民の生活を想起できる地域として学習を積み重ねることで、学生は地域住民の1年を通じた生活を理解することにつながる。また、実際に地区踏査や住民との交流をすることにより、地域診断の視点で新たに気づくことや地域の歴史などにも関心を持つようになっていく。

そして、第三段階では、実習の事前学習として大学内で既存資料等から情報収集することにより、住んだことがない地域でも、住民の生活のイメージを高めることにつながる。また、すでに地域診断の意義が修得できているため、実習中の地域診断への取り組みが円滑であり、実習中に実施する家庭訪問や健康教育においても、地域診断の視点をもとに実施することができ、学習してきたことが実際の保健師活動につながっていることを実感し、実習に積極的になっている。

本学が保健師卒業生を輩出した2010(平成22)年以降の卒業生数と保健師就業者数(表4)では、本学の保健師就業割合は全国・北海道と比べて高い⁵⁾。これは、本学の保健師教育で工夫をしている地域診断をはじめ、地区組織活動や家庭訪問など実際に地域に出向いて行う演習を組み合わせるなどの学習を重ねることにより、学生が保健師活動へのイメージを高め、保健師就業につながっていると考えられる。

また、保健師活動の基本となる地域診断の学習を早い段階から積み重ねて教育することで、保健師活動の視点と臨床看護との違いも修得できていると考える。

表4 全国・北海道・本学の卒業生数と保健師就業者数

	全国		北海道		名寄市立大学			
	卒業生数	卒業時 保健師就業 (割合)	卒業生数	卒業時 保健師就業 (割合)	卒業生数 <i>選択制学生数</i>	卒業時 保健師就業 (割合) <i>選択制学生に 占める割合</i>	保健師就業中 (うち既卒就職)	保健師就職の 転職あり
2010年3月	12,219	692 (5.7%)	638	37 (5.8%)	47	6 (12.8%)	6 (1)	3
2011年3月	13,364	730 (5.4%)	629	38 (6.0%)	56	11 (19.6%)	12 (3)	3
2012年3月	14,145	730 (5.2%)	764	43 (5.6%)	53	10 (19.2%)	7	1
2013年3月	15,000	713 (4.7%)	754	53 (7.0%)	52	10 (19.6%)	9	1
2014年3月	16,577	746 (4.5%)	778	56 (7.2%)	50	13 (26.0%)	10 (1)	2
2015年3月	16,874	748 (4.4%)	798	49 (6.1%)	50	7 (14.0%)	7 (1)	-
2016年3月	17,906	782 (4.4%)	801	32 (4.0%)	51 <i>15</i>	3 (5.9%) <i>20%</i>	3	-
2017年3月	18,627	802 (4.3%)	872	42 (4.8%)	52 <i>14</i>	8 (15.4%) <i>57.1%</i>	9 (1)	-
2018年3月	20,219	864 (4.3%)	1,004	35 (3.5%)	52 <i>13</i>	10 (19.2%) <i>76.9%</i>	9	-
2019年3月					47 <i>13</i>	12 (25.0%) <i>92.3%</i>	12	-
合計					510 <i>55</i>	90 (17.6%) <i>33 (60%)</i>	84 (7)	10

※本学は2016年3月卒業生より保健師選択制開始。斜体は卒業生数のうち選択制学生数と選択制学生に占める卒業時保健師就業割合。

※本学の保健師就業中と保健師就職の転職ありは2019年4月1日現在のもの。

(文献5、文献6、文献7、文献8を基に筆者作成)

5. おわりに

学生が地域住民の生活を想起しながら学習を重ね、住民との交流も行うことができるよう工夫することにより、地域の歴史や住民の様子などを知り、保健師活動の基本となる地域診断の技術を理解することにつながっていると考える。

なお、本稿の一部を第7回日本公衆衛生看護学会にて発表した。

引用文献

- 1) 標美奈子 (2018) : 6章公衆衛生看護活動の計画・実践・評価 A 公衆衛生看護活動の展開における地域診断 : 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 (標美奈子著者代表)、p. 110、医学書院。
- 2) 標美奈子 (2018) : 6章公衆衛生看護活動の計画・実践・評価 A 公衆衛生看護活動の展開における地域診断 : 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 (標美奈子著者代表)、p. 111、医学書院。
- 3) 播本雅津子、永谷智恵、佐藤郁恵 (2017) : 名寄市立大学における看護学教育カリキュラムの変遷、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター年報地域と住民、第1号 (通巻35号)、p. 19-26。
- 4) 標美奈子 (2018) : 6章公衆衛生看護活動の計画・実践・評価 A 公衆衛生看護活動の展開における地域診断 : 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 (標美奈子著者代表)、p. 114、医学書院。
- 5) 播本雅津子 (2016) : 日本最北公立保健師教育養成施設における卒前・卒後教育の現状と課題、特集 行政保健師の質の保証 - 卒後教育・CPD、公衆衛生、80 (12)、p. 903-908。
- 6) 厚生労働省 : 平成28年度看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査。 https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450141&bunya_l=15&tstat=000001022606&cycle=8&tclass1=000001089335&tclass2=000001089336&second2=1 (2019年4月2日)
- 7) 厚生労働省 : 平成29年度看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査。 https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450141&bunya_l=15&tstat=000001022606&cycle=8&tclass1=000001108395&tclass2=000001108415&second2=1 (2019年4月2日)
- 8) 厚生労働省 : 平成30年度看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査。 https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450141&bunya_l=15&tstat=000001022606&cycle=8&tclass1=000001123616&tclass2=000001123675&second2=1 (2019年4月2日)